

【第九十九号 二〇一三年 三月 五日発行】

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞

TBSラジオ『MY!NEWSおきこモーニング』取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049・230・1111 FAX230・1112

福音の園® Gospel Garden®は有限会社シャロンの商標

ご家族の声 傾聴ボランティアの声

ほつとあんなほつとあんな一緒に

お話し相手ボランティア『えがお』会長 吉沢 悦子

お話し相手ボランティア「えがお」は、「ふじみ野市社会福祉協議会お話し相手ボランティア養成講座」の受講生が「お話しを耳を傾け、その気持ちに寄り添います。ほつとするひとときを一緒に過ごしましょう」とお話し相手をさせていただいています。現在会員は三六六人、訪問先はふじみ野市・川越市・富士見市の一三施設と一二人の個人宅を訪問しています。二〇〇六年から毎年五〇〇回以上の訪問をしてきました。

貴施設を訪問して、いつも皆様の

一番楽しかった頃の貴重なお話を

聞かせていただき、長い人生のひと

コマをご一緒に感謝しております。

土に触れ、音楽を楽しみ、ゆつたりと暮らしてい



らつしやる様子とスタッフの皆さんのお声掛けが優しいなあと感じています。

基本理念・運営方針説明

「寒いから着かしてあげようと思った！」

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

話しは半年前にさかのぼります。酷暑の夏、食卓に居られたEさんが急に上着を脱いで肌着一枚になった。「どうしたの？」と尋ねると「お隣りの方が寒いと言うので、着せてあげようと思った」と、理由を説明下さった。天井設置のエアコンは「28度設定」でしたが、それでも寒いと体感されたKさんを気遣ったEさんの優しさでした。この「優しさ」に私は心底驚嘆して、今に至りました。

「問題行動」の一つと映ってしまう場面でした。きちんとコミュニケーションがとれたので正しく「解釈」できました。これが会話の成り立たない方だったら、即「問題（異常）行動」と評していた筈。一見「問題行動」と映るものであったとしても、全ての行動には一つひとつに意味があるのだと、改めて再認識いたしました。何事でも「即断は禁物」です。

「介護体験は自分の老いのリハーサル」と提言した方の一文を紹介しました（本誌第九十三号）。「何年後かの自分」の姿の中に、果して「寒いから着せてあげよう」と脱いでまでしてあげるだろうか。学歴や職歴・業績名譽と云った「鑑兜よろいかぶとを着て装って生きてきた生き方に終止符が打たれる」老いの世界。身体的・精神的な弱さや醜さがあらわになり、文字通り「地が出る」そのときに、「Eさんのような優しさ」が自分の中にあるのだろうかと振り返ったときに、『親の介護は何年後

かの自分を世話しているようなものだから』と、介護する側、される側の心のあり方」（本誌第九十三号）を思い起こしながら、改めて読み直しました。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

「天上に向かって唾を吐けば、そのまま自分の顔に落ちる」と云われます。認知症高齢入居者をお世話させていただくのは「何年後かの自分を世話しているようなものだ」とする、前述・提言者の真意を得心できました。「優しいお世話に徹すれば、やがて自分も優しく世話してもらえらる」。反対に「冷遇したら、やがて自分も冷遇される」。「マニュアル」ではなく、これが「人の道」。

『育てたら、育てたように返す子ら』（朝刊掲載 川柳）
学校現場におけるいじめや職場におけるいじめ。運動部監督による体罰問題も、痛みや恐怖心では決して向上しない」と再認識したい。立ち止まって自分の足元を見つめ直したら、建て前やスローガンで終わらない本当の「優しさ」が見えてまいります。万人にやってくる「老い」を直視して、そこから、現在を見つめ直したら、「自分の立ち居振る舞い」は、おのずから「優しさ」を求めざるを得ない筈だからです。これが「介護の原点」。

スタッフの声

ゼロからスタートした介護の仕事も半年たち

ゼロからスタートした介護の仕事も半年がたち、まだまだ未熟ながらもスタッフの方々や利用者の皆さんと毎日楽しく過ごさせていたいただいています。笑顔のたえないこのホームでお仕事をさせていただいているのは本当に幸せだと感じます。時には厳しいお言葉をもらいますが、これからは成長し頑張っていきたいと思っています。



御礼

花菜園・庭木剪定

〇〇〇〇〇〇様
(富士見市)
(二階介護職・〇〇〇〇)